

第 XXIII 部

大学の学務システム及び 類似システムの研究

第23部

大学の学務システム及び類似システムの研究

第1章 OpenAAS WG の設立

大学の学務システムは、大学の学期・履修制度など個別の事情に大きく依存し、システムをカスタマイズしてしまうため、開発者に囲い込まれ（ベンダロックイン）、競争が促進されず高価であり、システムの進化の速度が抑制されている側面がある。

この問題に産学が連携して取り組むため、2010年11月26日に Open Academic Affair System (OpenAAS) WG を設立した。

第2章 OpenAAS WG の目的

学務システムの進化を促進するため、オープンソースかつ実用可能な学務システムの開発、運用、保守とその外注について議論する。

- ベンダロックインを回避し、開発、保守について、競争を促進させ、安価で良質なソフトウェアシステムを提供する枠組みについて議論する。
- 大学間の違いを吸収し、改修（カスタマイズ）を容易にするシステム設計について議論する。
- 大学の学務システムに求められる要件を整理し、参照可能な仕様を策定する。
- 大学の学務システムに類似のシステムについても適用できる、仕様の拡張・一般化について議論する。

第3章 関連事例

- 総務省 自治体 EA 業務・システム刷新化の手引き
<http://www.soumu.go.jp/denshijiti/system_tebiki/kiso/content01.html>
- 産総研包括フレームワーク
- 横浜市福祉保健システム（福祉5法システム）
<<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/gohou/>>
- 札幌市基幹系情報システムの再構築
<<http://www.city.sapporo.jp/johoo/it/torikumi/kikansys/>>
- 類似システムソフトウェアの設計、保守の問題による障害：岡崎市立中央図書館事件
<<http://www26.atwiki.jp/librahack/>>

第4章 2010年度の活動

4.1 概要

- 2010/11/26: WG 設立、ML 開設
- 2010/12/04: WIDE 研究会におけるキックオフ BOF

4.2 2010年12月 WIDE 研究会での議論

2010年冬の WIDE 研究会において、キックオフミーティングが開催された。ミーティングでの議題は以下の通りであった。

- OpenAAS の設立主旨について
(北陸先端科学技術大学院大学 小原泰弘氏)
- SOI と学務システムとのこれまでの付き合い方
(慶應義塾大学 大川恵子氏)

OpenAAS の設立主旨（北陸先端科学技術大学院大学 小原泰弘氏）

北陸先端大の小原氏より、本ワーキンググループの設立主旨と北陸先端大での学務システムの現状について説明があった。

本 WG は大学の学務システムがベンダロックインされている現状を問題として、それをオープン化によって解決する方法を検討するために設立した。

北陸先端大もこの例に漏れずロックインされており、多額のお金をベンダに払い続けなければいけない状態にある。これを解決したい。

方針としては、納入されたソフトウェアに関して大学側が権利を持ち、それをオープン化することによって、さらなるシステム的な進歩を進展させる。それにより、国内中の大学で同じことを繰り返しやっている非効率を解消させる。まずは学務システムの基本的な仕様を固め、これを公開することでオープン化と健全化を促進させたいと考えている。

SOI と学務システムとのこれまでの付き合い方（慶應義塾大学 大川恵子氏）

慶應義塾大学の大川氏より、School on Internet (SOI) と、慶應義塾の学務システムとの関係について、これまでの経緯を含めて説明があった。

慶應義塾においては、学務システムは全塾で共通である。そのため SOI は学務システムそのものとの統合は考えず、学務システムに存在するデータだけを提供してもらってシステム的には分離する、という方針を採ってきた。

この方針で成功した理由としては、1) SFC の卒業生が事務に就職し、SFC のカリキュラムや内情に詳しい人と共同で仕事をすることができた、2) 少ない予算で学生・教員および学生発ベンチャーと協力し、開発にあたった、3) 若手の教員がデザインに参加した、4) Student Asistant (SA) 制度を利用し、学生の協力しやすい体制を作った、などが挙げられる。

これに関連した議論として、全学と個々の学部の事情が異なる大学は難しい、JAIST みたいに一つにまとまっている方がやりやすいのでは、学生や教員、事務とたくさんの利用者がいるためアクセス権限の管理が難しい、SOI を見習って最初は小さいシステムからはじめるのがいい、外注するにしてもソースコードをちゃんと大学で確保する必要がある、などの意見が出た。

また大川氏より、学務システムは負荷にとても波があるため、4～5 月の授業登録のためだけに大量の負荷に耐えられるシステムを使っており、これは無駄なのでクラウド化などを考え資源を節約するのがいいかもしれない、との提案もあった。

第 5 章 マイルストーン

OpenAAS WG のマイルストーンを以下に示す。

- 2011 年 9 月: 参照可能な学務システム仕様書（案）作成
- 2012 年 4 月: 参照可能な学務システム仕様策定
- 2012 年 4 月: システム設計開始
- 2013 年 4 月: システム開発開始
- 2014 年 4 月: 類似システムへの適用について取り組む引き続き議論と設計に取り組む予定である。